



お正月

年賀状を作ろう

お正月は、誰にとっても身近なめでたい祝日なので、生徒が文化の違いや類似性について考え、日本について理解を深めるよい題材である。この授業で、生徒は特別な行事で使う語句や表現や代表的な習慣について学ぶ。まず、お正月やクリスマスなどの行事を自分自身の経験を通じて話し合い、さらに、年賀状の読み方、書き方を学ぶ。



ヘレン・ジルフーリー
Helen Gilhooly
ジャパニーズ・リソース・センター
(英国、ダービー州)

目的

言語面の目的

お正月に使う語彙を習得する。
お正月のあいさつや年賀状で使う慣用表現の読み方、言い方を習得する。
年賀状の正式な文章や住所・名前の書き方、干支の名前を習得する。

学習する機能	学習する表現	学習する語彙
<ul style="list-style-type: none"> ❖ 新しいひらがなの単語の読みと発音の練習をする ❖ 慣用表現の聞き取りの練習をする ❖ ビデオから必要な情報を聞き取る ❖ 教師の指示を聞き取り、理解する ❖ 年賀状を読んだり、書いたりする ❖ 教師に質問する 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ あけましておめでとうございます ❖ 今年もよろしくおねがいします ❖ 本年もよろしくおねがいします ❖ 平成～年、元旦 ❖ ～は日本語/英語でなんですか ❖ 教室用語(聞いてください/見てください/～してください) 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ お正月、あけましておめでとうございます、年こしそば、おとしだま、かどまつ、もち、おせちりょうり、ぞうに、はつもうで、かきぞめ

文化面の目的

現代生活の中の伝統的な祭りについて学ぶ。
言語と文化がいかに相互に結びついているかを理解する。
世界的な視点から相違点と類似点を観察し、他の国の祭りがその国民にとってどのような意味を持っているかを考える。
日本文化を、単にユニークなものとするのではなく、他の文化と照らし合わせながら理解する。

LESSON PLAN

用意するもの

資料1*または *Seasons and Festivals* (ビデオ)

ビデオレコーダー

黒板、マーカー、チョーク

資料2*

資料3*

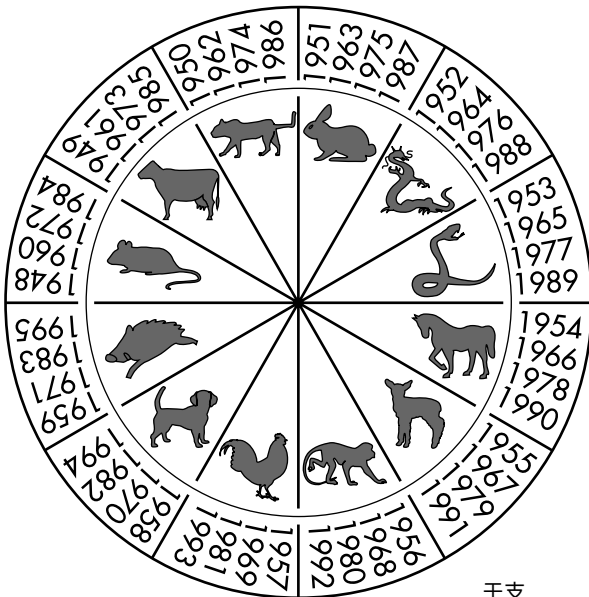
年賀状

干支 (Japanese Resources Centre Primary School Pack, *Kimono 1*, CIS Communication か *Japanese in Modules, Book 2*, ALC Press Inc. 所載の図を使う)

はがき

はさみ

カラーペン



干支

授業の進め方

事前学習

「お正月」の授業は、新学期最初の授業日(通常1月3日か4日)に行くが、まず、前学期の最終週(クリスマスの直前)に、私が日本で撮ったクリスマスの写真を生徒に見せておく。日本のクリスマスの飾り付けやクリスマスケーキ、イギリス人の友人が幼稚園の子どものためにサンタクロースに扮している写真だ。そして、日本の子どもたちもクリスマスケーキ(フルーツケーキではなくスポンジケーキだが)を食べ、親からクリスマスプレゼントをもらったりしていること、商店街にはクリスマスソングが流れていることなど、欧米のクリスマス文化の日本への影響について話をする。ここから発展させて、クリスマスが他の国の人びとにとってどんな意味を持っているのか、議論させることもできる。次に、折り紙でクリスマスツリーやサンタクロースの顔を折り、

クリスマスカードを作らせる。教師は日本語で、折り紙の折り方を生徒に説明する(繰り返し聞かせ、実際に作ってみることで、生徒は「おってください」「おりこんでください」「くりかえしてください」などの表現をすぐに理解できるようになる)。出来上がった折り紙をカードに貼り付け、「メリークリスマス」「よいおとしを(すごしてください)」と書き込む。

1. 準備

授業を始める前に、黒板にお正月の語句(お正月、あけましておめでとうございます、としこしそば、おとしだま、かどまつ、もち、おせちりょうり、ぞうに、はつもうで、かきぞめ)を書いておく。

2. あいさつ

生徒が教室に入ってきたら、「あけましておめでとうございます」(黒板にも書いてある)と言って迎え、それがどんな意味か、生徒に考えさせる。

3. グループ学習(5分)

生徒を小グループに分け、黒板の語句を読ませる(初級や混合レベルのクラスでは通常ひらがな表を用意して、必要なら文字を確認できるようにしておく)。

4. 発音練習(5分)

クラス全体で黒板の語句を一つひとつ大きな声で発音させる(この段階ではまだ語句の意味は説明しないが、生徒は「月」「年」「そば」などの単語をすでに学習しているので、部分的には意味を理解できるかもしれない)。

5. ビデオ鑑賞(5分)

新年のビデオを生徒に見せる(代わりに、お正月の習慣や食べ物のことが書いてある資料1を読ませてもよい)。その際、学習した語句を聞き取らせ、英語の意味を書かせる(ビデオには英語の説明に加えて日本の家族が話している場面があるので、その日本語を聞くことができる)。

6. 単語の意味を調べる(5~10分)

ビデオを見たあと、語句の意味を調べ、そこから出てきた質問についてさらに話し合う。この段階で、生徒たちは、ものではなく、お金をもらうという習慣(お年玉)に興味を示す(「日本人はどう思うのか」「日本人が贈り物としてお金を受け取ることはあるのか。あるとすれば、いつか」など。ここからさらに、お正月や誕生日などの祝い事のさいの家庭の習慣の違いについて、討論を広げることができる)。「はつもうで」と「かきぞめ」という単語はビデオの中では出てこないの、その意味を調べることが、辞書

を引く練習(英国全国学校教科課程 British National Curriculum の項目の一つ)の機会にもなる。生徒の使っている辞書にこれらの単語が出ているかどうか、あらかじめ調べておく。

7. お正月について話し合わせる(5~10分)

ディスカッションは、生徒自身の経験を含めて、話題を広げる。「お正月に何をするか」「お正月の前後に、どんな行事があるか」など、日本文化のお正月について話し合い、日本と他の文化の具体的な違いについて考えさせる一方で、多くの国ぐにでお正月がいかに重要な行事であるか、ということも考えさせるようにする。

8. お正月について説明する(5~10分)

ビデオを見ていて気づいた、日本のお正月行事の特色を英語で書かせ、何が新年らしい特別なことが、考えさせるようにする(もし生徒が挙げることができなかった場合は、教師の方からいくつか特色を挙げる。例えば、「着物は特別の日にはしか着ないこと」「お節料理はお正月のための料理であること」「竹、みかん、松の枝などお正月独特の飾り付けをすること」など)。時間があれば、もう一度ビデオを見せ、すべて覚えているかどうか確認させる。時間がなければ、習ったことをまとめさせる。

9. 資料2と3を読ませる(5~10分)

年賀状に関する資料3を生徒に配り、導入部分を読ませる。生徒をグループに分け、実物の年賀状と典型的な新年のあいさつ表現を書いたカード(裏に英訳をつける)(資料2)を渡し、どう読むか、グループごとに考えさせ、年賀状に同じ表現があるかどうかチェックさせる。見つけたら、教師に見せるように指示する。(タスク1、2)

10. 年賀状を書かせる(10分+宿題)

自分の年賀状を書かせる(タスク4)。まず、その年の干支が何か調べさせる(*Kimono, Book 1*のLesson 4、*Japanese in Modules, Book 2*のModules 7 参照)。それから、住所や差出人の名前、日付(「平成~年」「元旦」を使う)を年賀はがきに正式に書かせる。時間があれば、タスク3もやらせてみる(混合レベルのクラスでは、タスクを余分に与えるとよくできる生徒はやる気をおこすので、効果的である)。

11. 発展学習

宿題として、年賀状を完成させることを課す。出来上がった生徒の年賀状を、学校の玄関に解説をつけ

て展示する。生徒の手で「あけましておめでとう！」と書いた大きなたれ幕をモミの枝で飾り付けする。

このほか、初心者グループに干支を作るタスクも行っている。これは算数の授業に日本に関するテーマを取り入れる方法として初級クラス用に考えたものだが、中学校の生徒にも同じく利用できる。私の授業では通常、生徒に「見なさい」とか「聞きなさい」とか「コピーしなさい」と日本語で指示するようにしている。また、読みの練習として、12種類の動物の名前をひらがなで黒板に書いて教えている。

それから、乾杯したり、お餅を醤油につけて食べてみてもいい。日本人の友人にお餅を送ってもらって(最近ではロンドン以外でも中国系のスーパーで買うこともできるが)、生徒に餅つきを体験させたりした。餅を少しと、すりばちとすりこぎ、または木の肉たたきと大きなボールを利用すると、うまくいく。こうしたことも、クリスマス前の学期最後のいい活動になる。

12. 評価方法

- ❖ 年賀状の作成
- ❖ 話し合い
- ❖ 宿題
- ❖ 読み
- ❖ 発表

生徒の反応

今回の授業や日本語学習全般について、生徒から寄せられたさまざまな感想を聞いて痛感したことのひとつが、「生徒たちは日本についてなにも正確な知識を持たないまま、日本語を勉強しはじめる」ということだ。日本語クラスの最初の授業で、生徒たちは次のように発言している。

「日本では、1人しか子どもを生めないんですね」「香港は日本にあるんですね」「新年に日本人は竜の舞を踊る」「日本人は刺身しか食べない」

しかし、日本語コースを終えるまでには、クラス全員が地図で日本(と香港と中国)がどこにあるか、ちゃんと示すことができるようになり、日本の食べ物(焼きそばやちらし寿司)を味わうという経験をし、日本について幅広い知識を身につけるようになる。

クリスマスとお正月をテーマにした授業は、生徒はいつも熱中するものだが、ある年、生徒の1人がビデオを見た後「まるでうちのクリスマスと同じだ。ごちそうがあって家族がみんな集まっている!」と思わず言ったのを聞いて、とてもうれしく思った。

文化理解と外国語学習について

民族間の共通点を見つけ、違いを受け入れてほしい

日本語のクラスで年中行事を取り上げることは、日本の豊かな文化的伝統について理解を深める機会になる。こうした機会に、行事のさまざまな要素、例えば、行事用の衣装や食べ物、行事を行う場所、儀式の内容や順序などを生徒に紹介している。言い換えれば、生徒は日本人がハレの日になんかことをするのかを学ぶことができる。生徒のレベルでの理解では、「彼ら(日本人)」と「自分たち」の間のギャップを埋めるまでの理解には達しないが、私としては民族間の相違する、あるいは類似するさまざまな点について、生徒たちに考えさせ、理解を深めていってほしいと考えている。そこで、生徒は、日本人と自分たちが対極にいると考えず、次のようなことに気づくようになる。

- 1)文化の違いは、人類や世界の多様な本質を理解し、楽しむための方法として、賞賛すべきことである。
- 2)最初に考えてみたときにはすぐにわからなかった、自分たちの生活様式との多くの類似点、相似点が表層下にあることを発見することができる。
- 3)我々自身の社会にも、人びとや伝統の間に多くの違いがある。

このようにして、自分たちと日本人の生活だけでなく、自分たちの間にも共通点を見つけ違いを受け入れることを通じて、まだよく知らない外国や外国の人びとに対して生徒が心を開いていくことを私は願っている。

幸いなことに、私は長期間日本で生活し働く機会を得た。この経験とアジアの多くの国ぐにを旅行した経験は、世界の多様な文化、さらに自分の国に対する私自身の態度を変え、視野を広げてくれた。私自身も生徒と同じ年頃にはそうだったが、彼らの多くは文化や社会についてまだ知らないことが多くある。生徒が大人になって、海外で生活し働くことになっても、また国外に出る機会がなくても、技術の進歩によって世界は小さくなっている。したがって、教師として異文化に対する生徒の視野を広げ、個々の経験を他の人とも共有できる機会をなおざりにするわけにはいかない。また現在、多民族社会のなかで生活している生徒自身、他の文化や人びとについてもっと知りたいと思っているに違いない。この状況をうまく利用し、生徒の視野を広げ、お互いの違いはどのようなところにあるのかということを考えさせることが是非とも必要なことだと思われる。多民族グループでも単一民族グループでも、ことばを通して文化を教えることは、新年やクリスマスなど皆が経験している行事にもさまざまな考え方があることを知り、そうした行事の祝い方がいかに多様であるかを理解する機会を与えてくれる。ここに、生徒たちの固定観念を改め、日本や日本人のイメージに対して新しい知識を大きく注ぎ込む機会がある。

講 評

生徒にとって年賀状を見るのは楽しいだろう。最近は写真を一緒に印刷することが多く、家族全員や子どもの写真が刷り込まれている。ねずみ年にちなんで、ペットのねずみの写真を印刷する家庭もある。年末近くに結婚する人は年賀状を結婚のあいさつ状として使い、新しい住所を知らせたり、親族や友人に「これからもよろしく」と書き添えたりする。

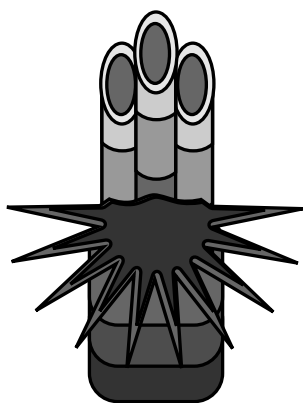
年賀状に関してもうひとつ忘れてはならないのがお年玉くじの存在で、郵便局で売られる年賀状にはそれぞれ番号が付けられている。くじの抽選会は毎年1月15日に行われる。もらった年賀状が当たると、上位賞品なら大型テレビなどがもらえ、下等の賞でも便箋セットや2枚組の切手セットがもらえる。通常の年賀はがきは50円だが、53円のはがきもあり、3円分は慈善事業に寄付される。

お正月 **NEW YEAR**

—A story to read aloud—

TARO DESCRIBES THE NEW YEAR HOLIDAY

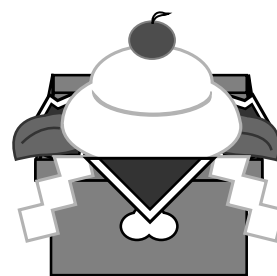
I love the New Year holiday. My father's office is closed for three days at the beginning of January so my parents, Hana and I always go to my grandparents' house for a few days so we can all be together with them and my uncle and aunt and cousins, Hiroko and Masayuki. The



かどまつ

roads out of Tokyo on New Year's Eve are even busier than usual with people going home for New Year so I'm always glad when we finally reach my grandparents' farm. It's much more peaceful there. We always have new clothes for New Year so I know, at some point, grandmother will say how smart I look and how grown up I'm getting! Hana loves having new clothes but I don't! When we arrive the first thing we see are the かどまつ which my uncle has put on each side of the front gate. They are made of pine branches, bamboo and straw. Pine trees represent long life in Japan. Sometimes my grandparents have already put traditional decorations over the front

entrance but sometimes they wait until we arrive so that we can help. We put up pine branches, mandarin oranges and a twisted straw rope called しめなわ. All these things are meant to bring good luck and keep evil away. When we go inside I know the first thing my mother will comment on is how clean and sparkling everywhere looks. Everybody in Japan gives the house a good clean before New Year. My grandparents have a small altar in the main room. We love helping to decorate it at New Year. As well as oranges, ferns and straw, we also put two rice cakes, called かがみもち at the front of the altar. These rice cakes are to please the gods. We eat rice cakes, of course. My mother sometimes buys them ready made but my grandmother always makes them in the traditional way. If we're helping, Hana usually measures out rice because she says she is more careful than I am. The cakes take a lot of kneading, though, and I think I'm better at that than she is.



かがみもち

While my grandmother, mother and aunt are busy in the kitchen we like listening to our grandfather telling us about old New Year customs. My favourite is the ししまい ceremony because it doesn't usually take place in Tokyo nowadays. Somebody in the village dresses up as a lion and dances from house to house. The lion is supposed to drive away any evil spirits that might be lurking in the house. We always eat a traditional dish on New Year's Eve. It's called

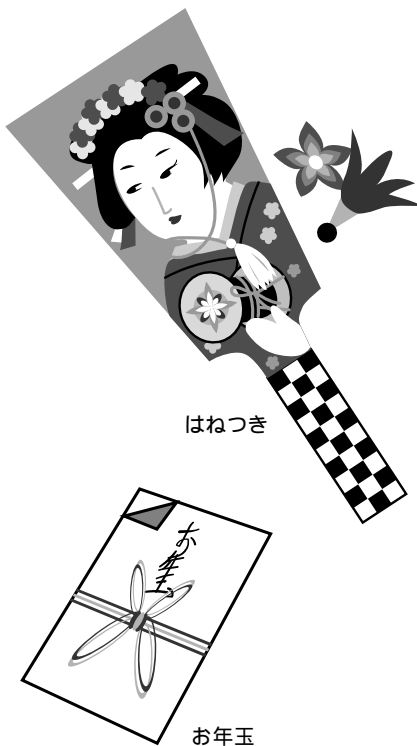


ししまい

としこしそば. そば are noodles and としこし means seeing out the old year and seeing in the new. The noodles are long and thin and so we say they mean a long life. We have another New Year dish, called ぞうに which is also meant to give us a long life. It's a kind of soup made from rice cakes, radish and other vegetables. It's very popular at New Year. This year Hiroko and I are going to be allowed to stay up until midnight to see in the New Year. Hana and Masayuki think it's not fair but they're younger than us.

It's going to be really exciting. All over Japan, at midnight, everyone will be listening out for じよやのかね which means the ringing of the temple bell. At every temple, all over Japan, the temple bell is rung one hundred and eight times. Although our grandparents' farm is not very near the temple, my grandfather says he has never yet failed to hear the sound of the bell carried on the wind. I'm determined to count all one hundred and eight chimes.

On New Year's Day my grandparents always get out the traditional toys and games. My favourite is こま or spinning top. I'm getting quite good at it. Masayuki and I usually play a game of はねつき. It's a bit like badminton.



My grandparents usually receive lots of New Year cards. It's great fun when they arrive. They all get delivered at one time because the Post Office keeps back all the cards for each house until New Year. We get presents at New Year, too. Children get お年玉 which is money in a special envelope. Grown-ups give presents to people who have been helpful to them during the year. We call the year-end gift-giving せいぼ.

Before we go back to Tokyo we all go to the shrine, or sometimes the temple, to pray for health and happiness in the coming year. We have to pay this visit after じよやのかね but no later than the 7th January. This visit is called はつもうで.

The New Year holiday always goes far too quickly. All too soon it will be time to go back to Tokyo and school.

あけましておめでとうございます

ほんねん
本年もよろしくおねがいします

ことし
今年もよろしくおねがいします

へいせい ねん がんとん
平成 年 元旦

A Happy New Year

I look forward to our continued
friendship this year.

I look forward to our continued
friendship this year.

1st January,

年賀状をかこう

年賀状は日本のとても大事な習慣です。人びとは11月に準備をはじめ、郵便局は12月15日から年賀状の投かんを受けつけます。年賀状は1月1日に配達されます。それより前に配達されることはありません。年賀状は、たいてい、はがきです。お店で買ったり、無地のはがきに自分で絵をかいたりします。年賀はがきにはいろいろなデザインがあります。人気があるのは、その年の動物(中国の干支)をデザインしたものです。今年の動物は何か知っていますか。郵政省から発行されるお年玉つき年賀はがきという特別なはがきもあります。これは、年賀状の下にくじ番号が印刷されているものです。郵政省が1月15日に抽せんを行い、当たった人はテレビやステレオや切手シートをもらえます。

タスク1

先生から配られた紙の漢字やひらがなを読みましょう。大きな声で発表してください。
同じ意味の英語とあわせましょう。
先生と答えあわせをしましょう。
先生から配られた年賀状の例を見て、知っている表現を見つけましょう。

タスク2

あなたのグループに配られた年賀状について、次の質問に答えてください。紙に答えをかいてください。まず、裏側(絵がある側)を見てください。
この年賀状は、誰から誰にかかれたものですか。どちらが名字でどちらが名前ですか。
メッセージをローマ字でかきなおしてください。どんな意味ですか。
答えを先生のところへ持っていきましょう。
黒板に、メッセージを英語に訳してかきましょ。

タスク3

年賀状の表側(住所がある側)を見て、次の質問に答えてください。
都道府県の名前は何か。
市の名前は何か。
何丁目ですか。
受け取り人の名字は何か。
住所はどの順番で書かれていますか。
答えを先生のところへ持っていき、答えあわせをしましょう。

タスク4

自分で年賀状をかきましょ。今年の動物の絵をかいてもいいです。タスク3をした人は、かたかなや漢字で住所をかいてみましょ。